

# 求不得苦

仏教のスタ  
ートは、人生思



うようにならないという所から始まりました。それを

「苦」と言います。苦は分類され八種類に整理されます。

これを四苦八苦と言います。八苦の一つが今回ご紹介の  
求不得苦です。

求めるものが得られない苦の事です。たくさん浮かびま  
せんか？お金、食べ物、ブランド品などの物質的なもの  
や、愛情、名声、支配などの精神的なものもあります。  
例を挙げればキリがないでしょう。求めるものが得られ  
なければ、ストレスを感じたり、恨みにもなる場合があ  
ります。

ややこしいのが、求めるものが得られても、それで満  
足はしないということ。次の願望が出てきます。

さらにややこしいのが、手に入ったとしても、今度は  
それとつかは別れなければならないという苦しみが  
同時に起きるのです。これを四苦八苦の一つ「愛別離苦」  
と言います。



求めることは、本能で煩惱なので止める  
ことはできませんが、今あるもの大切さ  
も考えてみませんか。

朝顔に  
青虫つかず  
夏休み？  
考存取

# こんなところに 仏教用語

身近な仏教用  
語を紹介して  
います。

# 九品

「あの人上品だね」  
「下品なことはやめな  
さい」この上品下品とい



う言い方は仏教用語から来ています。仏教では「上品・下品」と読みます。

浄土真宗では三部経の一つである『観無量寿経』に上品下品

の分け方が書いてあります。我が子が父殺しをするという悲劇  
にあつた母韋提希は、自らも軟禁されて、お釈迦様に救いを求  
めます。そして、お釈迦様は極楽の様子や阿弥陀仏を観る方法  
を伝えます。さらに、極楽浄土に往生する者を九つに分類しま

す。これを今回ご紹介の「九品」といいます。分け方は

上品上生・上品中生・上品下生・中品上生・中品中生・  
中品下生・下品上生・下品中生・下品下生」です。上品は、大乘

の教えを守る人々、中品は小乗の教えを守る人々、下品は悪を  
犯す人々。その中でも下品下生は五逆十悪を為して、善行など  
修めることが出来ず、苦が続く人々です。それでも、南無  
阿弥陀仏と称えることですくわれていくと説かれます。



親鸞聖人は自らを下品下生こそが  
私であり、私の為の阿弥陀仏の本願  
であつたと慶ばれます。